

地域での教育・研修で地域貢献

苫小牧信用金庫 とましん地域経済研究センター 取締役常務 中 塩 栄 治

I. 当金庫の概要

当金庫は昭和 23 年、戦後の混乱期から経済活動もようやく自力で回復を目指していた頃設立しました。同年に苫小牧市が市政を施行、苫小牧商工会議所が発足しました。当金庫の歩みは、まさに地域とともに始まり、名実ともに地元で誕生した地域金融機関となりました。

当金庫は、北海道の中心都市札幌市を含む近隣市町村 9 市 9 町を営業エリアとしています。本店所在地の苫小牧市の人口は、札幌市・旭川市・函館市・釧路市に次いで北海道第 5 位となり、陸・海・空が充実した北海道の交通の要所となっています。

明治末期に製紙工場ができたことを契機に工業都市として歩みはじめ、貨物輸送の近代化に対応した港湾整備が進み、エネルギー、機械、金属など多種多様な企業が立地し、一大臨海工業地帯を形成するにいたりました。現在では道内シェア約 70%と広大な面積を有する大規模工業地帯となっています。



(中塩さん 親子金融探検隊にて)

II. 社会貢献・地域貢献

当金庫は地域とともに歩み、地域のご支援をいただいて育まれるものとの認識に立ち、地域内循環を役割として、自らの特性、機能を生かしながら地域と共に生きることを社会的使命としています。「地域を愛する力が原動力」をモットーに、地域の皆様を対象とする教育・研修部門の活動に力を入れています。

(1) 産学連携による「とましん子供ものづくり教室」と「公開講座」

平成 17 年に苫小牧工業高等専門学校、次いで、隣接する室蘭工業大学と産学連



(苫小牧市の位置 出典：BIGLOBE 地図)

携協定を締結しました。理科離れが叫ばれている中、子供たちに理系学校へ進学した後地元企業へ就職してもらうためもあり、地域の発展に欠かせない「ものづくり」人材育成として、小学校高学年および中学校低学年を対象とした「とましん子供ものづくり教室」を開く運びとなりました。現在、夏休みに室工大、冬休みに苫小牧高専の協力を得て、年2回開催しています。

「とましん子供ものづくり教室」は保護者同伴の講座で、保護者の方にも一緒になって楽しんでいただいております。毎回和気あいあいとした雰囲気になっています。

毎年、室工大・苫高専とも開催3か月ほど前から「ものづくり」の内容について協議しています。室工大には、固体・液体・気体の実験や、自動車産業集積のまちという特性を活かした鋳造工作をお願いしています。また、ロボコン大会で活躍している苫高専には、電子で動かす各種ロボットを作ってもらっています。

教授や学生のお力添えにより、2時間程度で実験や工作を終え、最後に作ったロボットでゲームをして遊ぶなどしています。子供たちはもちろん、保護者の方にも楽しんでいただいております。時には保護者の方の方が熱心になりすぎたりすることもあります。私をはじめ、当金庫の職員も毎回一緒にロボットづくり等に参加させていただいております。



(子供ものづくり教室にて)

この講座では「あそび感覚」を重要視し、なるべく多くの子供たちに接してもらえよう、これからも継続していきたいと考えています。

加えて、最近では室蘭工業大学との共催で、自然災害に関する公開講座を開催しています。近年十勝沖地震が頻繁に発生していることに加え、苫小牧は南に太平洋、北に活火山の樽前山を仰ぐまちであるため、地元のみならずのニーズも高く、好評を博しています。

(2) とましん金融教室と親子金融探検隊

近年、金融環境の変化や金融商品の多様化・複雑化等の中で、個人が自らの判断で資金運用を行う機会が増え、個人における金融リテラシー（金融に関する基礎知識）が求められています。

このような背景から、「1. 金融商品の抱えるリスクに気付かず損をする事例が発生しているため、将来を担う子供たちにお金（金融）に関する基礎知識やリスク感覚を身に付けてもらい被害を防ぐこと」および「2. モノやおカネの大切さや勤労感覚を身に付けてもらうことに加え、リスクに対する自己責任や多重債務の恐さの認識を促し、巧妙化する金融犯罪に対する予防策とすること」を目的とし、小・中学生を対象とした金融教育を実施しています。

金融教室の教材は、しんきん保証基金寄贈のDVDと手作りのテキストを使用しています。テキストは、講座終了後のアンケートや保護者の方々からのご要望などを参考にしながら、毎年改訂しています。

平成20年3月から教育委員会・校長会等の協力を得て、毎年各小・中学校の希望に合わせて実施しています。

このほか、親子で体験してもらう「親子金融探検隊」を開催しています。模擬紙幣による札勘、集中センターの現金収納事務、1億円や各種硬貨の重さ体験、窓口・後方事務の見学、講座（大事なお金のはなし）などをカリキュラムとして用意し、実施しています。

毎回、札勘は難しいようです。保護者の方にお子さんの札勘をお手伝いいただくようにしていますが、なかなか上手くいきません。しかし、勤めを休んでご参加くださった保護者の方がいたり、親子で楽しく金融を学ぶ機会を提供できているという実感があり、感激です。

(3) 金融犯罪防止セミナー

平成 16 年に苫小牧警察署と「地域の安全を守る『110 番の店』に関する協定」を結びました。この協定に基づき、金融犯罪防止を呼びかけるための金融犯罪防止セミナーを、苫小牧警察署の支援を得て当金庫ホールで行いました。

平成 21 年から開始した、手作りのまんが付きテキストを使っての町内会単位の出前教室は、あちこちの町内会から開催希望が殺到しており、スケジュールが追いつかないほどの人気ぶりです。



(金融犯罪防止セミナー)

(4) 創生塾・創友塾

平成 15 年 6 月、新時代の経営環境に適応できる経営者としての素養と見識を高めることを目的として、地域経済の今後を担う若手経営者および後継者を対象とした「創生塾」を設立しました。平成 15 年 7 月の開講以来延べ 160 余名の塾生が修了し、平成 22 年 1 月に第 6 期目を塾生 27 名にて開講しています。

平成 21 年 8 月に、当金庫・札幌信用金庫・旭川信用金庫の 3 金庫が、最適な運営を目指すための情報交換を目的とし、協定を締結しました。

地域間交流を通じた若手経営者や後継者のスキルアップ、異業種交流会やその他の連携を図ることを目指し、合同の広域的交流会の開催を検討しています。

当金庫の最終目標は北海道内全域の連携ですが、まず旭川・札幌両信用金庫さんにご賛同いただきました。地域にはさまざまな産業や流通があり、それぞれの若手経営者たちが手をつなぐことによって大きなパワーが生まれることを期待しています。

さらに平成 21 年 7 月には、卒業生から、卒業生仲間やより多くの方々との交流を希望する声が多く寄せられ、それに応えるべく、「創友会」を創設しました。

創設にあたって会員の募集をかけたところ、卒業生の約 7 割から入会の応募があり、熱い意気込みを感じました。

Ⅲ. 夢、これからの目標

1 人でも多くの方々に私どもの地域貢献活動に参加していただくことで、地域における苫小牧信用金庫の存在をアピールしたいと考えています。

特に「とましん子供ものづくり教室」については、よりいっそう盛り上げていきたいと考えています。北海道最大の工業地帯を抱えている苫小牧は、少子高齢化が進み、労働人口の減少が進む中、深刻な人材難に陥る危険性を孕んでいます。将来を見据えた人材育成が、重要課題となっているのです。

将来を担う子供たちに「ものづくり」の素晴らしさ、大切さ、そして大きな希望と夢を与えたいと強く望んでいます。さらに、私どもの活動が、子供たちの理科離れ解消につながることで、また、子供たちに地元に残ることの魅力への気付きを与えられることを、切に願っています。地域の活性化を目指して、今後も活動を継続していこうと思っています。